

### 第3 障害者スポーツ文化センターラポール運営事業

横浜ラポール及びラポール上大岡は、障害児・者のスポーツ・文化・レクリエーション振興の中核拠点施設として、障害児・者の多様化するニーズに即した事業を行いました。

令和4年度は、横浜ラポールが開館30周年を迎え、9月25日に記念イベント「ラポールの日 2022」を新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じながら開催しました。通常事業実施にあたっては、多様なプログラムの展開、地域資源との連携した取組、障害者のスポーツ・文化活動に関する積極的な情報発信に努めました。

重点を置き実施した項目は、次の3項目です。

#### ◇継続利用につながる仕組みづくり

障害や年齢に応じた教室やワークショップを開催する等、スポーツや文化活動ができる機会を増やしました。また、特別支援学校などが施設利用する時のコーディネート、フィットネスやプールにスポーツ指導員を配置し、いつでも助言できる体制をとるなど利用しやすい環境を整えました。

#### ◇重度障害者への支援の強化

「運動あそび広場」等小児期から重度の方でもラポールの利用体験ができるようなプログラムを始めました。また、市内アーティストの協力で障害や年齢を超えての巨大絵制作、音楽や演劇の鑑賞等文化活動の重度障害者への取組も定着してきました。その他、聴覚障害者の理解を深めるため、民生委員等地域での支援者に出張講座を実施しました。

#### ◇地域の事業所等支援の拡充

日中活動の場で体を動かすことを継続してもらえるよう障害福祉サービス事業所への出張指導を強化し、特別支援学校でのラポールの施設利用・職員の活用等をPRした結果、利用相談も増えました。

(実績)

※( )内は昨年度

施設名	開館日数	施設利用者数
横浜ラポール	345日 (345日)	247,550人 (182,967人)
ラポール上大岡	306日 (305日)	23,655人 (18,582人)

#### 1 スポーツ振興

◇ 運動・スポーツの開始から活動の定着までを支援する個別指導、リハ・スポーツやウェルネスプログラム及びその後の継続的な支援として、フィットネスルームやプールでの日常的な指導を通じて、技術獲得や活動定着に配慮が必要な方への支援を行いました。また、利用者間の主体的な関わり合いを促す取組を行いながら、運動・スポーツの習慣化や競技力向上等に必要となる継続的に支援する仕組みづくりを進めました。

◇ リハセンターの研究開発事業と連携して開発したボウリングの自動投球装置の改良や、ゲーム要素を取り入れたフィットネス指導、移動補助装置を使用するフレー

ムフットボール教室、児童の発達に即した支援を軸にした運動あそび広場を提供する等、専門性を生かして重度障害者の支援に取り組みました。

- ◇ 障害福祉サービス事業所に対する出張指導、特別支援学校等がラポール施設を利用する際の相談・助言等を通じて、支援先との関係強化を図りながら、身近な場所で障害児・者が日常的にスポーツ・レクリエーションを楽しむことができる環境づくりを進めました。

(実績)

※( )内は昨年度

スポーツ大会・交流イベント	参加者	919人	(845人)
リハビリテーション・スポーツ教室、相談等	参加者	3,064人	(1,770人)
スポーツ・レクリエーション教室	参加者	7,092人	(4,983人)
障害者スポーツ指導員・ボランティア研修等	参加者	581人	(420人)
地域での支援事業（ラポール上大岡含む）	参加者	2,062人	(1,846人)

## 2 文化振興

- ◇ 重度障害の方が文化活動や鑑賞に取り組むため、ワークショップ実施時の道具の工夫や、感染症リスクを軽減するための透明テントでの鑑賞等環境づくりの構築に努めました。おもちゃの選定に関するヒアリングについては、アンケート調査を含め引き続き実施していきます。
- ◇ 障害当事者を講師として、美術展での体験ワークショップやおもちゃのイベントでの工作で活動していただきました。また、アーティストとして自信を付けていただくことを目的に、展示会や発表の場の拡充を図りました。
- ◇ アート体験を常設したことにより、これを目的に来館する利用者も増え、一定の成果を得ることができました。また、常設体験からの発展形として、染物体験や織物体験等趣味に繋がるようなワークショップを実施しました。

(実績)

※( )内は昨年度

講座・行事	56件	参加者	8,071人
	(49件)	参加者	6,333人

## 3 聴覚障害者情報提供施設

- ◇ 「聞こえの相談事業」について、18区役所、市内全ての地域ケアプラザ、港北区内町内会等でのチラシ配布や地域紙への記事掲載等により事業広報に努め、昨年度と比べて2倍となる計61件の相談に対応しました。また、相談利用者同士の交流を目的とし、「聞こえの相談 交流サロン」を開催しました。
- ◇ 身近な支援者である介護保険事業者、民生委員児童委員協議会等に向けて「聴覚障害者理解に関する出前講座」の募集を行い、依頼先のニーズを伺ったうえで、コミュニケーション時のポイントや言語聴覚士による高齢難聴に関するミニ講義等、聴覚に障害のある利用者に対応する際に役立つ内容となるよう努めました。
- ◇ 手話通訳者研修は、計36回のうち13回をオンラインで、要約筆記者研修は、計29回のうち1回をオンラインで開催しました。遠隔による要約筆記については、個人での会議参加、病院受診等、対人場面での活用に向け、検討を進めています。

(実績)

※( )内は昨年度

手話・筆記通訳派遣	延べ 12,637 人	(11,420 人)
聴覚障害者相談	延べ 1,607 回	(1,446 回)

#### 4 ラポール上大岡

- ◇ 横浜・上大岡の両ラポールにアクセスしづらい市内南西部エリアの障害福祉事業所を中心に働きかけ、利用者の状況に応じた健康づくり支援やレクリエーションの出張指導に取り組みました。その他、区自立支援協議会等と連携し、複数の事業所を対象としたレクリエーション交流会等を実施しました。
- ◇ スポーツや文化芸術活動に触れる体験会や展示会の開催、教室で学ぶ機会の提供、「トレーニング広場」や「絵画の広場」といった定期的な活動の場づくり、さらには「ダンス発表会」や「芸術交差展（展示会）」での作品発表の機会創出等、段階的な社会参加支援に取り組みました。
- ◇ 情報発信サイト「For Smile」にて、ラポールで開催される各種教室や体験会の情報を発信しました。また、障害者週間や世界自閉症啓発デーに合わせた展示や、隣接する港南区民文化センター「ひまわりの郷」をはじめ、市内各所での作品展示・巡回展を行い、一般市民に向けた障害者のスポーツ・文化活動の啓発に取り組みました。

(実績)

※( )内は昨年度

地域支援（横浜ラポール含む）	参加者	2,062 人	(1,846 人)
主催プログラム	参加者	15,921 人	(16,078 人)
共創パートナー事業	参加者	4,209 人	(2,504 人)